



じぶん未来BOOK

『じぶん未来BOOK』とDVDで夢に向けて努力する大切さに気づく

— 北海道・道立 函館稜北高校 —

取材・文／太田知子



1学年担任・進路担当
さとの
谷脇 智 先生

School Data

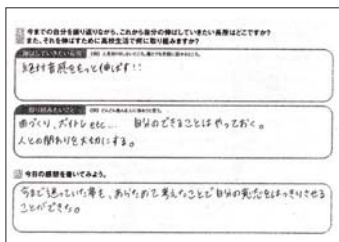
生徒数 / 515人(男子196人・女子319人) / 普通科13学級
進路状況(2011年度) / 大学・短大進学64.7%、
専各進学22.2%、就職3.5%、その他9.6%
北海道函館市石川町181-8
TEL 0138-46-6235
URL <http://www.hakodateryouhoku.hokkaido-c.ed.jp/>

■ 宿泊研修の主な日程 (2012年6月)

1日目	公立はこだて未来大学→登山 →夕食後：DVD上映 →『じぶん未来BOOK』を使ったワークシート
2日目	体育大会 →アイスクリーム作り
3日目	鹿部間歌泉公園 →函館市縄文文化交流センター

宿泊研修は入学して間もない1年生が新しい人間関係に親しむ機会。将来について考え始める最初のきっかけづくりとして進路学習の時間もある。『じぶん未来BOOK』を使った取り組みは、1日目の夕食後に実施。研修初日の緊張と高揚が入り混じった雰囲気の中、熱心に取り組んだという。

■ ワークシートの記入例



この生徒の夢は「アーティスト」。「難しい目標だからあきらめかけていたが、今回の取り組みで意志をはっきりさせることができた。これから曲作りなどを頑張りたい」と書いている。「いつか夢が変わったとしても、今このように決意して努力することは、この生徒の財産になると思います」と谷脇先生。

■ 生徒の感想 (一部抜粋)

- ・どんな仕事でも勉強は必要なので、今からしっかり勉強して、なりたい仕事が決まったときに困らないようにしたい
- ・何かきっかけがあると、気持ちを入れ替えて頑張れるんだと思った
- ・「夢はかなえるもの」という言葉が一番心に響いた
- ・世の中にはいろいろな仕事があり、それぞれやりがいがあることがわかった
- ・今できることをみつけて、取り組んでいこうと思った

DVD上映後にワークシート。流れの良さが魅力

『じぶん未来BOOK』とDVD、ワークシートを使った進路学習は、1学年恒例の6

担当の谷脇智先生。また2009年から学力向上を目的としたWisdom project(ウィズダムプロジェクト)と呼ばれる取り組みを全校で実施。生徒・教員双方の授業評価、英検・漢検などの資格取得に取り組んでいる。「全教科で宿題が多いことも本校の特色です。週末も自宅での学習習慣をつけ、卒業までに着実に学力を伸ばす生徒が多くいます」という1学年担任で進路担当の谷脇智先生。

北海道函館稜北高校では、大学・短大・専門学校への進学希望者が9割近くを占める。しかし進学して何を学ぶのか、どんな分野に就職したいのか決まっていな生徒が多い。このため「総合的な学習の時間」にテーマ学習などを行い、上級学校卒業後の人生まで視野に入れた進路決定ができるよう指導している。

月の宿泊研修で初めて実施した。「本やDVDの内容が、将来をよく考えてから進路を決めてほしいという学校の方針に合っており、共感しました。またDVDを上映し、集中したところでワークシートに取り組みという流れが生徒の興味を高め、やる気を引き出すと感じました」(谷脇先生)。

「ためになった」が99%。その後も勉強意欲が持続

当日はまず夢をかなえた社会人が仕事のやりがいや高校時代を語るDVDを視聴した。その後取り組んだワークシートでは、まず適性検査を行い、次に本に登場する50人の職業人の中から興味をもった1人を選び、仕事のおもしろさや大変さなどを書きだした。さらに興味のある仕事分野とその分野で働きたいと思える職種を選び、最後に自己理解を深めるために過去の「喜怒哀楽」体験をそれぞれ書きだし、伸ばしたい長所や今後取り組みたいことをまとめた。

終了後のアンケートでは「ためになった」「とてもためになった」をあわせて99%という高い評価が得られた。「あきらめないことの大切さと努力の重要性がわかった」など、生き方の指針にかかわるような気づきもあった。谷脇先生は「一番の成果は、夢や目標をみつけ、それに向けて頑張らなければいけないと、多くの生徒が気づけたことです」と言う。

予期しない収穫もあった。ワークシートの「過去の自分の体験」や「今後伸ばしたい長所」の欄に、普段の姿からは想像できない意外な経験、夢に対する熱意が率直に書かれており、生徒の内面を知るうえでとても役に立ったということだ。

今年度は発展的な学習を行う土曜講習への希望者が多く、選抜方式をとった。この際、講習を受けられなかった生徒がとても悔しがり、「次回の選考で頑張ろう」と前向きに勉強に取り組む姿が見られた。「悔しがると意欲が高まっていることに感動しました。例年以上に生徒が積極的な点にも進路学習の成果が出ていると感じます」と谷脇先生。

『保護者講演』で大学卒業後まで見据えた教育の大切さを保護者と共有

— 京都・市立 堀川高校 —

取材・文／太田知子



左から
進路指導主事
すえふさ
末房和真先生
副校長
ふるいけつよし
古池強志先生
1学年主任
よりゆき
滝本順之先生

School Data

生徒数／749人(男子419人・女子330人)／普通科6学級、人間探究科・自然探究科12学級
進路状況(2011年度)／大学・短大進学68.2%、専各進学1.2%、就職0%、その他30.6%
京都市中京区東堀川通錦小路上の四坊堀川町622-2
TEL 075-211-5351
URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/horikawa/>

■ 「探究基礎」の授業の概要

1年前期	探究の「型」を学ぶことが目標。講義などを通じて探究のすすめ方や、そのために必要となる情報の収集や整理、活用の仕方、論文作成の基礎、発表の方法等を身に付けさせている。
1年後期	2年での論文作成に向けて、学問分野によって区分される少人数講座(ゼミ)を開講し、その分野で必要となる実証の方法を実習を通して身につける。
2年前期	1年次の実習や各ゼミで習得したスキルを基盤に個人で探究の課題を設定する。その上で、必要に応じて新たな手法を学びながら、探究活動をすすめ発表会や論文作成にのぞむ。

探究基礎は、実際に自分自身で設定した課題を解決するという探究活動に取り組む授業。問題を発見し解決するための技能や、情報を多面的・批判的に検討できる力、根拠や理由から答えを導くための論理的思考力、そして議論を通じて真理に近づく対話を身につけることが目的。

■ 「保護者講演」がもたらしたと思われる成果

■先生にとって

- ・大学合格を目的とせず、大学卒業後社会に出て必要なことは何かを考えながら高校生活を送ってほしいという学校の教育方針を伝えることができた
- ・保護者と子どもとの適切な関係作りについて、客観的なデータをもとにした外部講師のアドバイスを伝えられた

■保護者にとって

- ・社会で自立するために必要な力などを具体的に知ることができ、学校が目指している教育内容に共感すると同時に学校への信頼感が高まった
- ・子どもへの接し方、進路決定へのかかわり方で注意すべき点や心がけたい点がわかった

■生徒にとって

- ・保護者が「探究基礎」をはじめとする高校の特色ある活動に対する理解を深めてくれた
- ・保護者が自分への適切なかかわり方やサポートの仕方を理解してくれたことで、保護者との関係が良くなった

同校では毎年1学年の9月に保護者を対象とした文理選択説明会を実施している。今年度この説明会と同時に、就職環境と社会で求められる力などをテーマとしたリクルートによる保護者講演を初めて実施

講演を機に教育方針への理解が深まることを期待

同校の代名詞と言われる「探究基礎」の授業(詳細は左図)は、生徒主体の委員会が中心となって運営する。1学年で行う研修旅行も先行や行程などほとんどを生徒が主体的に計画。大規模プロジェクトを組織的に遂行する経験を通して、生徒は主体性や協働する力を身につける。

京都市立堀川高校は、京都大学への現役合格者が毎年30人を超える進学校であり、キャリア教育の先進校としても全国的に有名だ。「本校の教育目標は自分の考えに基づいて行動できる『自立する18歳』を育てることです。そのため学校生活全般で『生徒主導』を心がけています」と語る副校長の古池強志先生。

結果として、講演はとても満足のいくものだったという。たとえば「就職活動で必須のエントリーシートで問われること」などのリアルな情報が提供され、社会人となったとき必要なのは「どんな状況でも学び続けられる力」「周囲に主体的に働きかけ

子どもとのかかわり方を保護者が見直す機会に

1学年主任の滝本順之先生も事前に保護者講演の内容を聞き、「これはいいな」と感じた。というのも、1学年では探究活動に積極的に取り組ませるとともに、将来自分が社会とどうかかわっていくかについて深く考えさせていたからだ。「講演によって保護者と学校が教育目標を共有し、協力して生徒をサポートできるのではないか」と期待しましたと滝本先生。

また11月の三者懇談会でも、社会情勢を踏まえて子どもを進路を考えようとする保護者が見られるなど、随所に成果を感じる場面があったという。

滝本先生は講演の後、PTAの会合で保護者と話をする機会があった。その際「堀川高校が社会に出たとき必要な力を育てようとしていることや、社会とどうかかわるかまで考えたうえで進路決定を求めているとわかった」などの声が聞かれた。また11月の三者懇談会でも、社会情勢を踏まえて子どもを進路を考えようとする保護者が見られるなど、随所に成果を感じる場面があったという。

また「保護者と高校生のコミュニケーション」をテーマにした内容も大いに役立った。「母親は息子以外に興味や生きがいを見つけてしまおう」という、ウィットに富んだアドバイスには笑いが起きていました。外部講師の言葉だからこそ素直に聞けた面もあると思います。保護者が改めて子どもとのかかわり方を見直す機会になったことは大きな収穫です」と末房先生。自身も講演を聞き、「人生の基盤となる力を育て、生徒一人ひとりの自主性を尊重した進路指導をしたい」との思いを新たにしたいとそうだ。

「傾聴・発信力」などだということがわかった。